様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：３２６８５
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１２５１１

研究課題名（和文）分野横断的な中世仏教文献の研究―南北朝期の新史料『梅林折花集』を中心に―

研究課題名（英文）Cross-disciplinary study of Buddhist literature in the Middle Ages; Focusing on the analysis of the 14th century historical document "Bairinsekkashu"

研究代表者
芳澤　元（YOSHIZAWA, Hajime）

明星大学・人文学部・准教授

研究者番号：６０７９５４４１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：1360年代に醍醐寺僧が高山寺僧との対談内容を聞書した新出史料『梅林折花集』について、本研究は二つの研究手法をとった。第一に、本書の全文を翻刻し、著者である賢西や対談相手の慈英の出自を解明した。第二に、南北朝内乱や災害がはびこる社会状況のなかで宗教勢力が新たな動向を示すことに注目し、14世紀の時代像を究明した。とくに、13世紀に明恵の弟子が整備した高山寺聖教が、14世紀に躍動する禅僧や顕密僧らに相承され、室町時代の仏教が鎌倉時代の宗教的遺産の継承の上に成立した側面を指摘した。中世宗教の通史叙述に資する成果になったといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
第一に、研究期間の前半に、説話文学会で本書に関するシンポジウムを企画・開催し、歴史学と国文学のあいだで分野横断的な研究成果や研究論点の共有を実現させることができた。第二に、本書に収録された醍醐寺僧と高山寺僧が対談した内容は、真言密教や華厳学、禅学など中世仏教学に関する知見が豊富であるから、国宝である醍醐寺聖教と高山寺聖教の世界とを有機的に結びつけることを可能にし、文化財と文化財をつなぐ歴史的な視点を提示する学術的意義をもっている。第三に、麻疹など感染症の流行や、現代社会でも悩みの種である南海大地震のような自然災害に関する情報をも発信したことで、新聞報道でも紹介されて反響を呼ぶことになった。

研究成果の概要（英文）：In this study, we analyzed the "Bairinsekkashu",which records a conversation between a Daigoji monk and a Kozanji monk in the 1360s,in two ways. In addition, he investigated the picture of the 14th century that linked religious and social conditions. First,the full text of the book was reprinted to clarify the background of the author, Daigozi-Kensai,and the origins of his interlocutor,Kozanzi-Ziei.Second,by focusing on the new trends in religious group amidst the civil wars and disasters of the Northern and Southern Dynasties, we have determined the image of the 14th century.In particular, Myoe's writings, which were organized at Kozanji temple in the 13th century, were passed on to Zen monks and Esoteric Buddhist monk, who were active in the 14th century.This points out the aspect that Buddhism in the Muromachi period was established on the basis of the inheritance of the religious heritage of the Kamakura period. The results were useful for the synthesis of medieval religion.

研究分野：日本中世史

キーワード：南北朝時代　中世仏教　寺院聖教　災害史　感染症　説話文学　寺社縁起　明恵

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究の開始前より認識していた問題点として、日本史分野では「史料学」深化と、研究の細分化による学際的な全体史構想の停滞とのあいだに矛盾があると考えられる。これを克服するべく、各方面の専門的知識、とくに歴史学・国文学研究で比重を占める仏教文献の知識や論点を共有する必要性を感じてきた。隣接分野と共有しやすい適切な素材として、京都の醍醐寺が所蔵する未刊史料『梅林折花集』（以下、『梅林』と略称）に着目するに至った。

２．研究の目的

中世史研究と隣接分野を架橋するべく、『梅林』の全文を翻刻し、その史料的基盤を確立する。また、その存在を学界に広く周知するべく、論文の公表および学際的なシンポジウムの企画・開催を実行する。

３．研究の方法

第一に、『梅林』の全文を翻刻して史料的基盤を確立した。第二に、『梅林』から窺える宗教勢力の相互関係や、内乱・文学・美術など 14 世紀の社会状況との関連を分析した。第三に、そこから派生して 14 世紀前後の宗教情勢と関連づけ、中世前期から中世後期をつなぎ議論の時期的視野の拡大に努めた。

４．研究成果

【研究の主な成果】

本研究の実施によって得られた研究成果は、大きく分けて三つの点に絞ることができる。その三つとは、『梅林』の書誌調査や著者にかんする基礎的な考察、『梅林』にうかがえる 14 世紀宗教批評や社会的背景の考察、列島の東西にまたがる豊富な内容をもつ『梅林』の情報源をなした都鄙間の人的交流網にかんする考察、である。

以下に示す成果を通じて、中世宗教史にかんする巨視的な視点と微視的な視点を構築することにつなげることができた。

第一に、『梅林』が、賢西が著わした別の対談聞書『真友抄』の続編というべき聖教であることを解明した。調査の結果、両書とも写本が醍醐寺報恩院隆源の筆跡とみて問題ないことを確認した。なお、賢西が東密金剛王院流の文海の門弟であり、対談相手である証実房慈英が尾張中島党の出自で、照空房慈順を継ぐ栂尾池坊覚薗院の学僧であることも確かめられた。

第二に、『梅林』における 14 世紀の宗教に関する批評を分析し、鎌倉期からの連続面や室町期への展開面について論じた。

たとえば、①『選択本願念仏集』『法然上人行状絵図』『黒谷上人語灯録』など専修念仏に対する『梅林』の批判は、法然を論難した明恵『摧邪輪』を踏襲したものであった。

②他方、その後隆盛する天龍寺や永源寺・大徳寺の禅僧を応接し、宋・元よりもたらされた公案や坐禅や華厳禅一致の言説に関心を示しつつも、禅僧の驕慢や勢力の伸長には警戒したふしが多々みられる。慈英や賢西の禅や浄土宗に対するこうした態度は、易行性・専修性への疑問や批判と解釈することができる。

③また、13 世紀に明恵の門弟である証定居士が、禅と華厳の融合を説いた『禅宗綱目』は『梅林』のなかでも話題となり、慈英は『禅宗綱目』を賢西に貸与している。顕密仏教を中心とする教学にとって融和可能な禅は受け入れる余地のあるものだったことがわかる。『七天狗絵』『夢中問答』への見解も含め、宗教勢力間の相互批評と評することができる。

第三に、『梅林』がもつ広域情報を分析し、14 世紀の都鄙間交流を担った者や寺院生活史の様相についても副次的な成果を得た。

たとえば、①拙稿「耕雲散人子晋明魏と室町文化―明徳・応永期の寺社縁起と臨済宗法燈派―」で論究したように、ともに紀伊国と洛北とに拠点をもって動線が重なりがちであった栂尾の明恵門流と臨済宗法燈派（紀伊興国寺・京都妙光寺）が、南朝勢力圏のなかで紀伊の湯浅党と共に三角関係にあったと指摘した。

②また、こうした都鄙間交流の担い手として、本研究では(a)碧潭周皎、(b)子晋明魏（耕雲・花山院長親）、(c)秩父・白河関の髭僧など、歴史の表舞台からは隠れがちである人物群像もとりあげることになった。とくに(a)碧潭周皎は、もともと北条氏名越流の出身で鎌倉幕府に仕えた東密僧であったが、幕府滅亡後は足利政権に鞍替えし、夢窓疎石の下で禅顕密兼修の学僧として活動した足跡を追究した。(b)子晋明魏は、南朝に祇候した宮廷歌人であったが、南朝瓦解の前夜に剃髪した後、臨済宗法燈派のために寺社縁起を作成した段階から、義持政権の全国的な寺社復興事業に奉仕する段階までの履歴を紐付けた。いずれも、旧勢力から新体制への移行期に転身して活躍しており、彼らのような存在が『梅林』の史料世界を豊かにしたことが指摘できる。名もなき遁世者集団の一員であった(c)髭僧も、天台談義所と結びつくことで、東国における民間宗教者たちの人的交流網を形成し、『梅林』に情報を提供した様相が判明した。

③さらに、拙稿「室町社会の宴と肉食禁忌―精進料理の歴史的前提―」では、『梅林』にも頻

出する飲食文化を前提として、15・16 世紀の宴と肉食禁忌についても比較した。その結果、「14 世紀の危機」とされた『梅林』の時代には飯汁菜三種と喫茶が定番で、救荒食たる糒や豆製品・蕎麦粉などで飢渇をしのぐ状況がいっそう浮き彫りになった。都鄙間交流に関する所見は、シンポジウムや編著論集などを通じて公表し、分野間での論点の共有に寄与することが期待される。

【国内外における位置づけとインパクト、今後の展望】

以上の成果は、国宝である醍醐寺聖教と高山寺聖教の世界を結びつける内容をもち、歴史学・国文学だけでなく文化財の価値を高めるものとなる。

宗教史的な研究成果としては、明恵以降の詳細が不明だった 14 世紀の高山寺聖教が、再編期の中世仏教に影響を及ぼしたことを明らかにして、宗派史観から離れて中世仏教史を総合化しうる素材を具体的に示した。さまざまな書物・絵巻が散見される『梅林』の分析に先鞭をつけた本研究は、中世仏教の通史叙述に必要な論点を提示できると考える。

また、都鄙間交流に関する研究成果としては、中世文学・美術史の寺社縁起・絵巻研究に歴史的・地域的視点を提供できることである。COVID-19 流行に伴う行動制限や想定以上の難解さから、研究期間中には間に合わなかったが、シンポジウムや発表論文に対する反響からみて、翻刻と解説の出版は分野を越えたインパクトを与えられると確信している。

今後、歴史学・国文学が進めてきた真福寺・称名寺聖教の調査成果とも接続させ、諸宗兼修の中世寺院に関する研究の総合化を進める余地がある。そうした作業の蓄積によって、醍醐寺聖教や高山寺聖教だけにとどまらず、寺院が保存してきた文化財からうかがえる歴史像の理解を高めることに貢献できると考えられる。また、本研究を遂行する過程で中世東国史についても知見を深めることができた。その知見を活かし、京都・鎌倉など政権所在地を中心に論じれがちな中世仏教論（室町仏教論）を全国区として語るための史料研究とすることができた。

【当初予期していなかった事象が起きたことで得られた新たな知見】

2020 年春から蔓延した COVID-19 感染症については、本研究も例にもれず、研究計画の遂行に多大な影響を蒙った。だが、それと同時に、世界的な感染症流行にたいする社会の関心が高まったことで、14 世紀の麻疹流行や南海大地震の被害を描写する『梅林』および『真友抄』を調査した本研究も注目され、先んじて『読売新聞』で報道され、学界でも認知度を上げることになった。また世界史研究で論じられる「14 世紀の危機」説についても知見を得ることができた。

また、『梅林』に登場する髭僧を追究する過程で、自身なりに中世東国史にかんする研究を深めることができたのも、当初予期していなかった収穫といえる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計21件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>芳澤　元 | ４．巻<br>31 |
| ２．論文標題<br>耕雲散人子晋明魏と室町文化―明徳・応永期の寺社縁起と臨済宗法燈派― | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>明星大学研究紀要 人文学部・日本文化学科 | ６．最初と最後の頁<br>29-50 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>芳澤　元 | ４．巻<br>- |
| ２．論文標題<br>水野勝成と戦国の習俗 | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>水野宗休研究会編（水野勝之代表）『水野勝成公寿碑 附 勝成公肖像画賛』（児島書店） | ６．最初と最後の頁<br>72-75 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>芳澤　元 | ４．巻<br>1027 |
| ２．論文標題<br>室町社会の宴と肉食禁忌―精進料理の歴史的前提― | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>歴史学研究 | ６．最初と最後の頁<br>12-25 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>芳澤　元 | ４．巻<br>- |
| ２．論文標題<br>南北朝・室町期の宗教―「祖師」なき時代の社会と宗教― | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>岩城卓二・上島享ほか編『論点・日本史学』（ミネルヴァ書房） | ６．最初と最後の頁<br>116-117 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>260 |
| 2．論文標題<br>居士たちの中世仏教―鎌倉武士から有徳人・キリシタン大名まで― | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>禅文化 | 6．最初と最後の頁<br>29-38 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>- |
| 2．論文標題<br>髭僧にみる中世東国と宗教―遁世僧集団と関東天台談義所の交流網― | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>菊地大樹・近藤祐介編『寺社と社会の接点―東国の中世から探る―』（高志書院） | 6．最初と最後の頁<br>217-246 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>- |
| 2．論文標題<br>幕府と五山―〝巨大企業体〟のような組織だった禅僧集団― | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>「室町殿」の時代―安定期室町幕府研究の最前線― | 6．最初と最後の頁<br>231-250 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>265 |
| 2．論文標題<br>謡曲《絵馬》管見―長禄三年伊勢斎宮の旅― | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>アジア遊学 | 6．最初と最後の頁<br>39-59 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>250 |
| 2．論文標題<br>僧房酒宴追考 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>アジア遊学 | 6．最初と最後の頁<br>35-47 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>252 |
| 2．論文標題<br>栂尾茶・醍醐茶の評判―14世紀高山寺の喫茶文化― | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>アジア遊学 | 6．最初と最後の頁<br>105-121 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>55 |
| 2．論文標題<br>醍醐寺賢西の『梅林折花集』と『真友抄』 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>説話文学研究 | 6．最初と最後の頁<br>5-15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>- |
| 2．論文標題<br>碧潭周皎の周辺と中世仏教―嵯峨・仁和寺・高山寺― | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>早島大祐編『中近世武家菩提寺の研究』（小さ子社） | 6．最初と最後の頁<br>373-397 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>10 |
| 2．論文標題<br>中世禅林の片岡山飢人説話―達磨寺・太子旧跡・虎関師錬― | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>『日本文学研究ジャーナル』 | 6．最初と最後の頁<br>97-110 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>- |
| 2．論文標題<br>禅院吸江寺の中世 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>『開創700年記念 吸江寺展』（特別展図録） | 6．最初と最後の頁<br>6-16 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>228 |
| 2．論文標題<br>僧坊酒宴と室町文化 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>『藝能史研究』 | 6．最初と最後の頁<br>30-45 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>- |
| 2．論文標題<br>光厳天皇―南北朝動乱に翻弄された人生― | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>石原比伊呂・久水俊和編『室町・戦国天皇列伝』（戎光祥出版） | 6．最初と最後の頁<br>109-130 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>－ |
| 2．論文標題<br>足利将軍家の受衣儀礼と袈裟・掛絡 | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>前田雅之編『画期としての室町―政事・宗教・古典学―』（勉誠出版） | 6．最初と最後の頁<br>p.188-209 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>976 |
| 2．論文標題<br>中世後期の社会と在俗宗教 | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>歴史学研究 | 6．最初と最後の頁<br>p.59-68 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>680 |
| 2．論文標題<br>書評・原田正俊編『宗教と儀礼の東アジア―交錯する儒教・仏教・道教―』 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>日本史研究 | 6．最初と最後の頁<br>p.69-77 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>－ |
| 2．論文標題<br>碧潭周皎の周辺と中世仏教―嵯峨・仁和寺・高山寺― | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>早島大祐編『中近世武家創建禅院の研究』（小さ子社） | 6．最初と最後の頁<br>印刷中 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>芳澤　元 | 4．巻<br>10 |
| 2．論文標題<br>中世禅林の片岡山飢人説話―達磨寺・太子旧跡・虎関師錬― | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>日本文学研究ジャーナル | 6．最初と最後の頁<br>印刷中 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計16件（うち招待講演　9件／うち国際学会　0件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>芳澤　元 |
| 2．発表標題<br>中世寺院と和食文化―地方寺院と食品技術― |
| 3．学会等名<br>鎌倉禅研究会第178回公開講座（於：大本山建長寺応真閣）（招待講演） |
| 4．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>芳澤　元 |
| 2．発表標題<br>髭僧伝説の謎と中世東国 |
| 3．学会等名<br>鎌倉禅研究会第165回公開講座（於：大本山建長寺応真閣）（招待講演） |
| 4．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>芳澤　元 |
| 2．発表標題<br>耕雲と室町文化―明徳・応永初期の地域と宗教― |
| 3．学会等名<br>国際日本文化研究センター重点共同研究シンポジウム「耕雲（子晋明魏）と寺社縁起」（於：国際日本文化研究センター）（招待講演） |
| 4．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>中世禅林の僧坊酒宴 |
| ３．学会等名<br>鎌倉禅研究会第163回公開講座（於：大本山建長寺応真閣）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>南北朝内乱の騒擾と寺院社会―醍醐寺賢西『梅林折花集』と『真友抄』― |
| ３．学会等名<br>説話文学会平成31年度４月例会［通算第171回］シンポジウム（於：文教大学越谷キャンパス3号館） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>謡曲《絵馬》管見―斎宮・アマテラス・東福寺― |
| ３．学会等名<br>野上記念法政大学能楽研究所共同利用・共同研究拠点〈能と仏教〉研究会第５回（法政大学市ヶ谷キャンパス・ボアソナードタワー） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>梅林折花集をよむ―14世紀宗教批評・附喫茶断章― |
| ３．学会等名<br>鎌倉禅研究会第158回公開講座（於：大本山建長寺応供堂）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>上皇のくらし―花園院と光厳院― |
| ３．学会等名<br>明星大学人文学部日本文化学科公開講座「即位と改元」（於：明星大学日野キャンパス） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>歴史学研究会第３回準備報告 |
| ３．学会等名<br>歴史学研究会日本中世史部会（於：明治大学） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>歴史学研究会第４回準備報告 |
| ３．学会等名<br>歴史学研究会日本中世史部会（於：早稲田大学） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>中世後期の社会と在俗宗教 |
| ３．学会等名<br>歴史学研究会2018年度大会・日本史部会中世史部会（招待講演） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>南北朝時代のラーメン!?―麺がつなぐ異文化交流― |
| ３．学会等名<br>連続文化セミナー第５回（於：椙山女学園大学）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>僧房酒宴と室町文化 |
| ３．学会等名<br>第42回藝能史研究會東京大会（於：法政大学）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>醍醐寺賢西『梅林折花集』ノート―14世紀の騒擾と寺院― |
| ３．学会等名<br>第3回中近世宗教史研究会（於：東京大学） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>都鄙関係・境界地域にみる室町文化 |
| ３．学会等名<br>国際日本文化研究センター重点共同研究シンポジウム（於：慶應義塾大学） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>芳澤　元 |
| ２．発表標題<br>東福寺の景観 |
| ３．学会等名<br>チェスター・ビーティー・ライブラリー蔵 絵巻絵本の最新研究（於：アイルランド共和国チェスター・ビーティー図書館）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2019年 |

〔図書〕　計2件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>芳澤　元 | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>勉誠出版 | ５．総ページ数<br>448 |
| ３．書名<br>室町文化の座標軸―遣明船時代の列島と文事― | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>芳澤　元 | ４．発行年<br>2019年 |
| ２．出版社<br>相国寺教化活動委員会 | ５．総ページ数<br>200 |
| ３．書名<br>『足利将軍と中世仏教』〔相国寺研究⑩〕 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究協力者 | 高橋　慎一朗<br>(Takahashi Shinichiro)<br>(10242158) | | |

６．研究組織（つづき）

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究協力者 | 猪瀬　千尋<br><br>(Inose Chihiro)<br><br>(10723653) | | |
| 研究協力者 | 野呂　靖<br><br>(Noro Sei)<br><br>(70619220) | | |

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|